

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Linkにわしろ		
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 16日		令和7年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 16日		令和7年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 10月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との対話の機会を多く設けることで、児童の日々の様子を共有し、発達状況や課題について共通認識を築いている。保護者が日々の悩みをその都度相談できる環境を整えているので、迅速かつ柔軟な支援が可能。	保護者に送迎をお願いすることで、(自宅と事業所間)送迎時に直接話す機会を持ち、家庭や学校などの様子も含めた情報共有や相談がしやすい環境づくりに努めている。	送迎時以外でも気軽に相談してもらえるよう、SNSを活用して連絡手段を整備しており、必要に応じて電話や面談にも柔軟に対応している。
2	支援プログラムでは、「4つの基本活動」を組み合わせた内容を取り入れ、子どもが自分で選び、決める力を育てられるような支援を行っている。	対象が小学生ということもあり、まずは基本的な生活動作を身につけながら、子どもらしく自然な放課後を過ごせるような活動を意識している	子どもが主体性を発揮できるよう、自己選択・自己決定を促す支援プログラムを構成している。経験の幅を広げ、より多くの選択肢の中から自分で選べる力を育てるために、制作や外遊びなど多彩な活動を取り入れている。
3	法人内に障害児相談支援事業所があり、利用児童の担当相談員になっている方が多いこともあり、関係機関やサービス担当者会議等の会議も含め柔軟に連携が取れる。堺障がい児放課後連絡会を通して、他事業所との連携もとることができる。	同法人に限らず、さまざまな相談支援事業所や他の事業所とも連携しながら、児童の「今」だけでなく将来を見据えた支援を日々考えている。	研修会や勉強会に参加することで、小・中学校卒業後の進路など将来に関する情報や知識を得て、子どもたちの目標に向けて今必要な支援プログラムを考え、整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動空間の一部に老朽化が見られ、清潔で快適に過ごせる空間づくりに改善の余地がある。	経年劣化により、壁紙の剥がれや汚れ、クッションフロアの亀裂などが目立ち、快適な生活空間の維持が難しくなっている	必要な箇所の修繕・補修を行い、安心して過ごせる空間づくりを進める。
2	地域の方々を招待する事業所の行事等がない、地域交流が少ない等、地域に開かれた事業運営が不十分	住宅街から少し離れたところにある、地域の学校の利用児が少ないなど、地域の方々への周知が足りない。地域のイベントへの参加は、サービス提供時間外が多く、職員のみで行ってきている。また、事業所としてオープンなイベントを開催したことがない	地域にある「子どもネットワーク」と連携をとり、合同でのイベント等を企画。例えば子ども会との行事など。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	Linkにわしろ						公表日	令和7年10月27日	
	利用児童数					22名	回収数	18	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	1		1			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	13	1		4	活動中の様子はわかりませんが、不安に思ったことはありません。	引き続き、子どもたちが安心して活動に参加してもらえるように充実した職員配置を目指します。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16			2			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18						
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18						
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	2		2			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16			2			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	2		2			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17			1			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	2					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	4	1	5			
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18						
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	1		1			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	1	2	2			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	18						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18						
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	5	3	4	6			
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	1		1			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	3		1	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17			1	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1		2	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	1		3	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	1		1	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1			
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	18				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	Linkにわしろ	公表日		令和7年 10月 27日		
		チェック項目		工夫している点		課題や改善すべき点
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		1階のみでも定員10名の利用は可能だが、ゆとりある空間確保のため2階も併用している。	2階併用に伴い、避難訓練や安全確認を定期的実施し、非常時の対応力を高める。階段利用に不安のある児童への個別配慮等。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	キャンセルが複数出た場合などは職員数に余裕が生まれている。 1日に保育士・児童指導員を3名以上配置	日によって職員配置数が異なるため、手薄の状態の時がある。人材確保が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	3	1階はバリアフリー対応で、トイレや階段に手すりの配慮あり。絵カード等による視覚支援も実施。	階段の使用が必要な場面があり、移動に支援が必要な児童にとっては負担となる可能性がある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	2	換気や空気清浄機の活用により衛生管理を徹底し、温度の調整にも配慮している。	清掃は毎日行っているが、経年劣化の為、壁・床の汚れ・破れが目立ち、補修が必要となっている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	静養室をカムダウンルームとして利用している。個別に部屋を確保できない時は、テントなどを使い、スペースを確保している。	一時的な対応としては有効だが、遮音性・安全性の面で限界があり、特性に応じた安心感の提供が不十分になる場合がある
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	2	定期的に会議やミーティングの場を設定している。	現状、非常勤職員も含めた会議やミーティングを開くのが難しい。個別の面談や、プリント配布などで意見を拾い上げ、共有していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	「評価表」以外に迎え時や連絡帳など日々のコミュニケーションを通して、保護者等の意向等を把握するように努めている。	積極的に話す保護者の意向は把握しやすいが、控えめな保護者や連絡帳記入が少ない家庭の声が反映されにくい
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	職員の勤務形態や業務状況に応じた柔軟な方法で意見を収集し、業務改善に活かすよう努めている。	今後は、意見の記録・共有方法の統一や、非常勤職員が安心して意見を出せる環境づくりにも取り組んでいく予定。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	第三者による外部評価は行っていない。	今後、第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		年4回の内部研修、さかい障がい児放課後連絡会主催の研修、「障がい者虐待防止・権利擁護研修」に参加。	外部研修への参加ができるよう、研修の情報収集に努め、全職員のスキルアップにつなげていく。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	支援プログラムは公表中。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	1	契約時に保護者から児童の状況を聴き取り、フェイスシート、アセスメントを作成。ニーズの整理を行い、支援目標等検討する	保護者だけでなく、本人の様子、学校や他機関の支援者からの情報も取り入れ、客観性と多角性を高める
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	主に、児童発達支援管理責任者が支援計画を作成し、職員の共通理解が不十分なところがある。	常勤・非常勤問わず、意見収集や参画の方法を柔軟に設定し、全員が関与できる体制を整える。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	日々の児童の様子や状況など情報共有を行い、支援について話し合いを行っている。	支援計画の活用方法について定期的に研修を行い、職員の理解と実践力を高める
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	3	日々の行動を観察し、職員がアプローチしながらアセスメントをとっている。	アセスメントの視点や記録方法について定期的に研修を行い、職員のスキル向上を図る
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	2	本人支援を主軸に目標を設定し、家族支援は相談対応にとどまっている。地域支援・連携や移行支援の記載が不十分	支援計画作成時に、4つの支援領域について職員間で意見交換を行い、視点の偏りを防ぐ。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	現場職員が素案を作成し、会議・ミーティング等で、内容を検討し、立案している。	活動後に簡易評価シートを用いて児童の反応や達成度を記録し、次の立案に活かすPDCAサイクルを回す
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	年間を通じた活動プログラムは定着しており、内容の細部で変化を加えている。	地域イベントなどを取り入れた活動を導入し、地域とのつながりを確保するなどの工夫が必要

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	2	日々の活動の中に、個別・集団活動を取り入れている。	集団活動が苦手な児童に対して、見学・部分参加・役割付与などの段階的支援を計画的に行う
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎朝ミーティングで活動内容や児童の様子を共有し、引継ぎ日誌で時間差勤務の職員とも情報を共有している	週1回程度、特定児童の支援方針について短時間のケース検討を行い、職員間の理解と連携を深める
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	毎日支援終了後に短時間の振り返りを行っている。支援記録はPC入力に対応。特記事項などは翌日以降のミーティングで共有・報告している。	振り返り内容の要点を簡潔にまとめ、時間差勤務の職員にも確実に伝達する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	活動の様子は全スタッフがPCで記録し、紙でも閲覧できるようにしている。	今後も定期的なモニタリングを通じて、支援計画の見直しを適切に進めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	1	利用開始から半年を目安にモニタリングを実施。その際に再アセスメント、支援計画の見直しと再考を行うようにしている。	半年に限らず、行動変化や環境変化が見られた際には随時モニタリングを行い、支援計画に反映する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3	2	日常生活の基本動作が身につくよう、一つひとつの行動に丁寧な支援を心がけている。発達を促すため、「遊び」を取り入れた活動内容を設定している。	ガイドラインに基づく活動分類と支援のねらいについて、職員間で共通理解を深める機会を設ける。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	2	全体のスケジュールは決めたらうで、遊びや課題などは子どもが自分で選んで取り組めるよう、機会を設けている。	選択肢が毎回同じだったり、発達段階に合っていないと、子どもが「選ばれている」と感じることがある。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	相談事業所が開催する担当者会議に児童発達支援管理責任者が参加。出席が難しい場合は様子・状況・支援内容等を報告書で提出。	今後もサービス担当者会議や関係機関との会議に児発管だけでなく、本児の状況をよく理解した職員も出席できるように努める
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	救急時等の協力医療機関等は、体制を取っている。	今後は近隣の医療機関とも連携できる体制を整えていきたい。保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えていけるように努める
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	学校の予定等は、保護者に確認をしている。学校のホームページも利用し、情報を得るようにしている。	今後も利用児童の学校と「情報共有」と「連絡調整」を可能な限り行っていく。児童の様子・状況等の情報も共有できるようにしていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	就学前の様子は、保護者から聞き取っている。	相談事業所を通して、利用前に担当者会議等を行ってもらえるよう働きかけしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	小学生対象にしている為、福祉サービス事業所へ移行する対象児童がいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	児童発達支援センター主催の研修会に参加する。	今後も引き続き、児童発達支援センター主催の研修会に参加し、連携ができるよう努めていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	近隣の公園にでかけた際に、その公園で遊んでいる地域のこどもたちと交流することがある。	今後は放課後児童クラブや地域の子どもの交流機会をつくるため、児童委員との連携を検討していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3	現在まで所在区の自立支援協議会への参加はない。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		お迎え時の口頭報告に加え、連絡帳やSNSなどを通じて、家庭での様子やデイでの活動を共有している。	日々の様子は伝えられていても、発達の变化や支援上の課題について体系的に共有される機会が少ない
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	『あいつてーしょん』を含む家族参加型の研修については、SNSなどを活用して周知している。	職員が家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）に関する研修を受講できるよう、必要な環境づくりを検討していく。
関	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	見学・体験時に支援内容、活動、設備等を説明し、契約の際に重要事項説明書を基に、利用者負担等について説明を行っている	今後も重要事項説明書、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行い、疑問や質問に関して対応していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	1	こどもや保護者様との対話を大切に、日々のやりとりや面談を通じて意向を丁寧に汲み取るよう努めている。	面談記録や連絡内容を簡潔に記録・共有できる仕組みを整備し、支援の質向上につなげる。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	1	面談や迎え時に説明を行い、同意を得るようにしている。	時間が取りにくい等の場合は、オンラインや電話で説明を行い、書面でのやり取りもできるように検討していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		迎え時や連絡帳、SNS・電話等で相談を受けるようにしている。可能な範囲で助言や情報提供を行い、必要に応じて面談の時間を設定することもある。	家族等からの子育て等に対する相談に適切に応じ、出来る限り面談や必要な助言と支援を行うよう努めていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	4	保護者会等の開催や交流する機会を設けることができていない	今後は、保護者会や家族が参加できる行事等を開催し、保護者同士の交流する場やきょうだいも参加できる機会を設けるように努めている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		窓口（苦情受付・解決責任者）を設置。事実確認後に関係者会議で対応等を検討。報告と対応策を提示して再発防止に努めている。	今後は児童や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに迅速かつ適切に対応するように努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	2	今年度は職員体制の不足やスキル面での課題もあり、継続的な実施が困難な状況となっている。	今後は体制の見直しや職員のスキル向上を図りながら、安定した情報発信に取り組んでいきたいと考えている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		契約時に「個人情報使用同意書」と「写真等の取り扱い」に関して、内容を説明・確認したうえで署名してもらっている。	今後はホームページのブログ、法人新聞等の写真掲載についての確認や担当者会議や救急対応等の個人情報の取扱いに十分に注意を払う。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		個々の状況に応じた配慮を行っており、文字にルビを付ける工夫や、画像付きの案内など、視覚的に分かりやすく伝えるよう努めている。	今後も必要と思われる最良の意思疎通のための手法や配慮を継続していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	事業所でのイベント実施や積極的な地域住民を招待する企画を行っていない。	地域住民との関わりを含め、地域に開かれた事業運営に努めていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	各マニュアルの整備はしているが、職員や家族等に周知ができていない。	緊急時対応などに関しても職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練の実施を検討していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		年2回、地震・火災避難訓練を実施。加えて災害時避難経路訓練を年1回行っている。	今後は策定済みの業務継続計画（BCP）に基づき、非常災害の発生に備えた避難訓練など、必要な対応訓練を計画的に実施していく予定。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	契約後に聴き取りを行い、フェイスシートを作成。てんかん発作等の持病や服薬内容、対応方法と緊急連絡先等を確認している。	今後も服薬や予防接種、てんかん発作等の児童の状況を適時確認できるよう、変更があれば報告してもらおう保護者にアナウンスしていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	契約後に聴き取りを行い、フェイスシートを作成。食事やおやつ提供に関してのを留意点を確認している。指示書がある該当児童はいない。	食物アレルギー等に該当する児童が利用する際は、医師の指示書に基づく対応が出来るように連携と体制を整える。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	年4回の内部研修内に「リスクマネジメント」と「事故防止」に関する内容で実施している。	内部研修以外に、職員には個別で「リスクマネジメント」と「事故防止」についての研修に参加できるように研修情報を共有する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	怪我、急病の場合における緊急連絡先とかかりつけ医は調査票に記載。無断欠席の際は安否、長期欠席の際は経過の確認を実施。	安全確保に関して、安全計画について家族等との連携が図られるように児童・保護者へアナウンスしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	定例会議でヒヤリハットの報告、事故再発防止の為に検証・対応策の検討を行っている。	報告しやすい雰囲気づくりや、匿名報告の導入などにより、全職員が安心して報告できる環境を整える。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1	内部研修内の「虐待研修」と「障がい者虐待防止・権利擁護研修」に参加している。	研修の振り返りを会議内で行うなどフィードバックを行って認識を深めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1	同意書による決定手順、児童・保護者への説明、支援計画及び行動支援計画等への記載と記録を行う。対象児童なし。	身体拘束適正化の為に虐待防止委員会の会議開催とマニュアル整備等も含めた体制強化に努める。	